

吉田文化会館だより

第 139 号
2023年 11 月

令和5年度 人権週間のつどい

～おひとりさまでも最期まで住み慣れた家や地域で～

ベストセラー『おひとりさま』シリーズの著者!!

上野 千鶴子さん 講演会 (参加無料・要申込)

日時 令和5年 11 月 26 日(日) 14:00～16:00 (13:30 開場)

場所 笠岡市民会館

笠岡市立図書館にも
上野千鶴子さんの蔵書は
37 種類! おひとりさま
シリーズもあります。



おひとりさま時代の到来

ひと昔前まで「人生 80 年」と言われてきましたが、今や「人生 100 年」時代へ移りつつあります。それに伴い、全国で増えているのが単身で暮らす高齢者、いわゆる「おひとりさま」です。

皆さんの抱く「おひとりさま」のイメージはどのようなものですか。「さみしい、不安、孤独」など良くない姿が思い浮かぶ人もいるかもしれません。しかし、おひとりさまのご本人は、心穏やかに、楽しく、誰にも遠慮することのないおひとりさま暮らしに満足している人も少なくありません。

「人権週間のつどい」では、より幸福度の高い「おひとりさま」暮らしを営むために、私たちが抱く寂しさや不安を解消するための知恵を、120 万部を超える大ベストセラーとなった「おひとりさま」シリーズの著者である「上野千鶴子さん」に講演していただきます。

結婚していても、子どもがいなくても、離婚しても、生涯独身で

も、たどる道すじは違えど長生きすれば誰もが最期はみんな同じ「おひとりさま」です。講演会の後にはきつと前向きで明るい「おひとりさま」の姿が現実のものとして、皆さんの未来に思い描かれていくことでしょう。

多くの皆さんの参加をお待ちしています。

申込 参加者の氏名、住所、電話番号を、電話、FAX で人権推進課に申込。市ホームページの申込フォームからも申込できます。左記 QR コードからアクセスしてください。

定員 900 名(先着順)

締切 11 月 17 日(金)

その他 手話通訳、要約筆記があります。補聴器(Ｔモード対応)で明瞭に聞こえるヒアリンググループ席もあります。

申込・問合せ 人権推進課

☎ (69) 2120

FAX (62) 5767

※詳細は市ホームページでご確認ください。



上野千鶴子さんプロフィール

1948 年富山県生まれ。社会学者。東京大学名誉教授。認定 NPO 法人ウイメンズアクションネットワーク(WAN)理事長。日本における女性学・ジェンダー研究のパイオニア。近年、介護とケアの分野に研究領域を拡大しています。

主な著書に『在宅ひとり死のススメ』『老いる準備 介護することされること』『生き延びるための思想 ジェンダー平等の罫』『女ざらい ニッポンのミソジニー』『近代家族の成立と終焉』『上野千鶴子が聞く 小笠原先生、ひとりで家で死ぬますか?』(小笠原文雄と共著)『ケアの力リスマたち 看取りを支えるプロフェッショナルたち』『介護保険が危ない!』ほか多数の書籍を執筆しています。



©後藤さくら撮影



人権まんが説

高齢社会の到来とともに、日常生活用具のニーズにも多様化・高度化が求められています。握る力が弱い人でも持ちやすいスプーンや、裏に滑り止めのお皿など、もともと各種高齢者福祉・医療施設向けに開発されたものが、一般家庭用としても店頭で販売されています。

ぱっと見だけでは、ユニバーサルデザインであることに気がつかない物もあり、スプーンを実際に使ってみると、なるほど便利で、鶏そぼろや麻婆豆腐など、細かいものやペースト状の料理が食べやすいように工夫されています。業務用の強化陶器を使ったものもあり、軽くて耐久性も抜群です。

ユニバーサルデザインの食器は、自立した食生活が送れるように高齢者など社会生活弱者の行動を妨げる物理的・心理的障がいを取り除き、食べやすいように工夫されたもので、誰でも安心して食事を楽しむことができます。

私たちが伝えていく 過去から学び すべての国が核兵器を持たない世界を！

広島へ原爆が投下されて78年となる8月6日に笠岡市中央公民館で「笠岡市原爆死没者鎮魂式並びに平和祈念のつどい」が開催されました。

式典では「岡山龍谷高校」の国語部と放送部の生徒たちが作成した「平和の誓い」が朗読されました。核兵器も戦争も無い世界の実現を目指して、次代を担う皆さんの平和への想いを力強く伝えてくれました。ここに、全文をご紹介します。

「平和の誓い」

日本の戦争終結から78年の年月が経ちました。

1945年8月、世界で初めて原子爆弾がヒロシマとナガサキに投下され、多くの人々が犠牲になりました。

70年以上経った今でも苦しみ続けている人が大勢いらっしやいます。

今もなお、世界には約1万3千発の核弾頭が存在していると言われています。

それは恐怖などという生易しい言葉では言い表せないことです。

私たちは、戦争の恐ろしさを「学んで」います。

私たち人間が、過去から学び、未来へ活かすことが出来るはずの種族だからです。

過去に起こった惨劇を繰り返してはいけません。

誰もが「学んだ」ことです。

しかし、私たちの世代は、戦争を知りません。

体験していないからです。

そして、私たちの世代が、おそらく被爆者に直接話を聞くことができる最後の世代です。

だからこそ、私たちは後の世代に戦争の恐ろしさを伝えなければなりません。

令和に生まれた新しい命は、過去の悲惨な出来事を知りません。

焼け野原になったヒロシマやナガサキ、あちこちで起きた空襲も、

今は復興してその姿はほとんど見えません。

残っている被爆した建物は本当に少ないのです。

その少ない被爆した建物の中で、真っ先に思い浮かぶのは原爆ドームで知られる広島県物産陳列館や被爆校舎である旧城山国民学校校舎ではないでしょうか。

私たちは、一度はそれらの場所に足を運ぶべきです。

先程の通り、被爆者との関わりが持てるのは私たちの世代までなのです。

戦争について知るためには、被爆したものを見なければ、

本当の意味で「学ぶ」ことは出来ません。

私たちは、戦争や原爆について「知る」ことは出来ません。

だから、もっと真剣に「学ぶ」べきです。

もっと真剣に「考える」べきです。

私たちは、今一度平和について考えるべきです。

戦争について考えるべきです。

そのきっかけは、今年5月に広島で開催されたG

7広島サミットにあります。

皆さんの記憶にも新しいのではないのでしょうか。

参加国はフランス・アメリカ・イギリス・ドイツ・

日本・イタリア・カナダの7カ国でした。

欧州理事会議長と欧州委員会委員長も参加しました。

世界的に地位の高い人々が、被爆地に足を運んでいるのです。

それほどまでに価値があることなのです。

凄惨な過去から学ぶことは多いはずで

す。

世界のあり方を変えるには、一人ひとりの意識が大切です。

私たちが平和に暮らせる世の中を、そして、いずれすべての国がすべての核兵器を

この世に存在させないことを心から祈ります。

